

国家プロジェクトを数多く手掛けてきた企画力、交渉力、調整力の達人

小河 俊夫（おごう としお） 男性 62 歳

【得意分野】

- 企画、調整
- 国や自治体との交渉、折衝
- 行政書類の作成
- 調査分析
- 業務監査

「内閣府（前総理府）で、約 40 年間、さまざまな仕事をしてきました。

その多くは、情報を収集、分析、企画立案、関係省庁と調整を重ね、それを実現していくというものでした。

たとえば、九州・沖縄サミットの広報を担当したときは、国民の関心をいかに高めるかに腐心しました。広報にあたり、サミット開催を周知したい官邸、この機会に沖縄をPRしたい沖縄県、サミットの意義は広めたいが討議内容を一切公表したくない外務省と、三者三様の要望がありました。

私はまず、そもそも何を伝えることが国民にとって意義のある広報かを検討。サミットが、いつ、どこで、どのような内容で討議されるかを伝えることに意義があると考え、関係者に調整を始めました。

官邸側には、サミットでの討議内容などの詳細を入れ、国民の関心を高めることを。沖縄県には、首里城など沖縄らしさを盛り込んだポスターを提案しました。

また、地球温暖化問題やリサイクルに国民の関心が高まっていたので、外務省には、今回、環境問題が討議されることを打ち出すことで、国民のサミットへの関心・理解が大きく高まると説得。三者から合意を得ることができました。

この他にも、行政評価や東ティモールの選挙支援など、数多くの事業に携わってきました」

【略歴】

九州大学法学部卒。総理府（現・内閣府）に入省。

総務庁行政監察局、総理府広報室、内閣府国際平和協力本部、同沖縄政策担当、同北方対策本部、総務省九州管区行政評価局の局長などを経て、16年に定年退職。

17年より沖縄振興開発金融公庫の業務監査、決算監査を務める。

「40年近く仕事をしてきて、民間と行政が連携することで、民間も、行政も大きな成果を得られると痛感しています。しかし、国は独自の考えがあるため、民間と協同する際に、壁になる部分が多く存在することも事実です。これからは、民間サイドから、自分の経験やコネクションを生かし、両者のスムーズなコミュニケーションや事業の架け橋として、社会に貢献したいと思っています」

【モットー】

「困難な仕事ほど、楽しく元気に」

【直近の動き】

「現在は、政府系金融機関で監査の仕事をしています。行政機関は、コンプライアンスや内部統制がたいへん重要ですが、金融機関も同様です。『しっかりと、間違いなく、公平公正に』——これまで同様、その姿勢で仕事をしています」

【勤務条件の希望】

2019年4月以降で、できれば常勤

（神奈川県の実家から通勤可能な仕事を希望）